

UDLM

8

vol.349

August 31th
2024

気づけば夜風が涼しくなり、あっというまに8月も終わりだ。
新たな学期に向け着々と進みつづけるために、
振り返りと気合の入れ直しの号としたい。

残暑の下、
止めぬ歩み

- p.2-5 夏休みの（自由）研究
- p.6-11 マガジン編集部
研究クロストーク
- p.12 Sセメを振り返る

△8月初頭、M2有志で富士登山をした際の写真。皆で歩み続け、頂上から見た景色は忘れられない。

夏休みの（自由）研究

7月末のジュリーを終えて、都市デザイン研究室にも夏休みがやってきた。とはいえ、各PJの活動は休まるどころか、秋の社会実験にむけて追い込み時だ。就活や課外活動に追われる人も多いだろう。しかしそろそろ研究とも

M1

Shusuke Tojo

都市型マラソンにおける景観およびコースの変化特性と参加者満足度の関係分析

選定背景

「都市」は様々な「活動」の場自身が行う「活動」であるマラソンに着目。マラソン大会参加時に、都市プロモーションイベントとして可能性を感じた。

Sセメ

プロジェクトやスタジオが忙しくてあまり研究が進まず・・・
楽しさ

趣味と研究を結びつくと、相乗効果が起こってよい。東京マラソン試走は練習にもなった。

難しさ

自分のやりたいテーマを主張しすぎて迷走中。都市計画学徒ランナーが他にもほしい

夏に向けて

スポーツ街づくりコンペ出してみようかと

Chisaki Kimura

商店街の生鮮食品店が近隣地域の暮らしに果たす役割

選定背景

小さい頃から生活の中に商店街があって、その中で生まれるコミュニケーションやあたたかい雰囲気が好きだから。

Sセメ

今まで部活ばかりで追い込み型だった生活から、ちゃんと定期的に研究を進めるようになったことが成長！まだまだだけど、とりあえず手と足を動かしてやってみることができた。

楽しさ

意識的に色んな商店街を訪れるよう

になって、知らなかった場所を知れたり、地元でも新しい気づきがあること。

難しさ

研究テーマが結局絞り切れてなくて、自分の興味が迷走中なのと、自分が興味あることを研究するのが難しい。

夏に向けて

Sセメは体力にものをいわせて詰め込みすぎたので、夏休みは身を削りすぎず健康的な生活を心がけながら、研究もプロジェクトも部活も遊びもやりたいことを全部頑張る！

向き合わなければならないのが現実だ。そこで、おそらく多くの人にとって小学生以来であろう(?)「夏休みに研究について考える」機会を設けることにした。デザ研メンバーの研究の状況をぜひ、楽しんでいただきたい。

Nozomi Matsumoto

住宅地に立地する非住宅系用途に関する研究

選定背景

学部卒論では鎌倉を対象地としていて、引き続き別の場所を対象に住宅他の研究がしなかったからです。

Sセメ

8割くらい卒論の振り返りになってしまい去年ほど進まなかったので、秋はもう少し進捗を生みたいですし、

楽しさ

現地調査（今年はまだ行けてないですが、）で、隠れ家的なお店（特にご飯屋さん）を見つけるのがとても楽しいです！

難しさ

院での対象地をどこにしようかまだに迷っています。鎌倉は、渋谷など都心部の住宅地とも郊外住宅地とも違う独特の特徴を持っていたので、そのような面白い場所を見つきたい気持ちもあります。

夏に向けて

都市計画学会に出す論文の大修正を頑張っています泣あとは今後に向けて、東京23区のうちどこかの住宅地のまち歩きをしたいです。できたらGISに触れたいです、！

Chiaki Wakuri

離島における二拠点居住のポテンシャル・インパクト・その課題に関する研究 - 東京都八丈島を事例に

選定背景

卒業制作から八丈島にご縁があるため。交通をはじめとするインフラが整った島に、2地域居住をはじめとした新しい暮らし方のポテンシャルがあると感じた。

Sセメ

とにかくひたすらヒアリングできたのはよかったが、後半疲れて失速してしまっ。ひとまず成果を出したことをよしとしつつ、研究の枠組みを作っていくたい。

楽しさ

2地域居住者の方から島民の方ま

で、色んな方にお話を聞いて人脈を広げられること。関わる皆さんが興味を持って暖かく協力してくれるのが嬉しい。

難しさ

どのような仮説を立てればいいのかわからない、また2地域居住者の定義をどのように設定するかも悩みどころ。

夏に向けて

夏休みの間に八丈島にまた足を運ぶ！ゆっくり滞在しつつ自分のペースで調査を進められると嬉しい。

Aoi Hoshi

水辺空間の保全及び利活用における河川漁協との連携に関する研究

選定背景

手賀沼での卒業制作やプロジェクトに取り組む中で感じてきた、水辺やそこに関わる多主体連携上の課題意識から。

Sセメ

圧倒的に時間をかけられなかった・しっかり向き合えなかったので残念な気持ちの方が大きい。

楽しさ

まだテーマにもかなり迷いがあってプロジェクトを超える楽しさに気づ

けていないですが、時間をかけるうちに楽しくなってくるのかなと思います・・・

難しさ

まだテーマがじっくりきいていない（自分の興味をあまり深掘りできていない）。そもそもあまり時間をかけられておらずバランスをとるのが難しい。

夏に向けて

本を読む時間をつくる



M2

Naohiro Otoyama

河川沿いの飲食店と歩行空間の利用実態に関する研究

選定背景

もともと卒制より日常の中で快適に過ごせる水辺空間が好きで、それをどうしたら設計できるかが気になったため。

Sセメ

手を動かしたり実地に赴く調査に専念したが、また仮説や研究の調査対象を考え直さなければならぬ反省点が多い。

楽しさ

長期的に見ると自身の研究テーマ関連では多くのことを知って議論も

徐々にわかるようになったことに成長を感じて嬉しくなる。

難しさ

ほぼ全て。研究の位置づけも調査手法も暗中模索で仮説の検証もままならず本当に書ききれぬのかと不安はたくさん。

夏に向けて

また1から整理しなおして秋 Semester 後は調査・手を動かすフェーズになるべく早く突入するための準備を行う！



- ・文化財の19世紀の修道院を転用してアート・教育のハブとして運営している Abbotsford Convent
- ・19世紀の商人の邸宅が文化財として保全されている Rippon Lea Estate
- ・先住民族や戦争時の歴史があり遺産登録されている Bondi Beach (上から順に・森屋)

Natsuki Kobayashi

商店街の景観整備の更新に関する研究

選定背景

まちに新たな景観が生まれ、その景観がまちの個性として定着、継承あるいは消失していく過程に興味があり、このテーマを設定しました！

Sセメ

先生方のおかげでSセメでようやく方針が定まりました。ジュリーでは研究の意義を問われたので、もう一度自分の関心に立ち戻りながらケーススタディを進めていきたいです。

楽しさ

まだまだ研究を楽しむことができる段階まで達していない気がします…

が、目下の楽しみは現地調査で色々なまちに行くことです！

難しさ

一番の悩みは自分の研究の優先度が学生生活全体の中で低くなっていることです。作業の時間がとれておらず、いつも指導してくださる先生方に対して申し訳なく思います…

夏に向けて

とにかく現地に行く！研究にPJに遊びにと夏休みも忙しくなりそうですが、夏が正念場ということなるべく時間をとって家でできる作業も進めていきたいです。

Yusuke Moriya

The management of indigenous heritage in Australia - the influence of the Burra Charter -

選定背景

アボリジニ（先住民）の東洋的な文化と、植民地支配以降の西洋的な文化が混在するオーストラリアは、独自の遺跡保全の理念を持っていて興味深いと感じたから。

Sセメ

インターネットや文書ベースで調べられることは一通り調べて、研究のベースになる部分を一旦固められた。また少し時間を空けてから、この期間の調査を振り返りたい。

楽しさ

ひとつひとつの遺産のことを調べて

いるだけで、旅行しているような気分になれること。自然遺産・文化遺産・考古学遺産など、多種多様な遺跡があっておもしろい。

難しさ

オーストラリアに関する背景知識が不足していること。特にアボリジニや植民地時代の基礎的な歴史から頭に入れないといけな、と思う瞬間が多い。

夏に向けて

8月の後半の2週間、オーストラリアに行ってきます！研究に必要な文書を集めることと、現地の人となるべく話すことが目標！

DAI XINYU

A Study of the Influencing Factors and Usage of Open Space on University Campuses Open to the Community

Reason

Because I am very interested in the publicity of various urban spaces. The campus has the characteristics of public urban space and has an impact on the surrounding environment, which is a very special space.

S semester

I collected typical cases of migration and new campuses in the urban area of Tokyo, browsed the guidance of campus planning

documents, and understood the trend of campus space public design from the perspective of planning. More campuses tend to add functions that are open to the public.

For Summer

To visit the campus in the scope of research on the spot, and consider the use of the campus from the perspective of citizens instead of students.

鎌倉いい場所なので来てください！（松本）



Tamayo Susaki

ジェンダー視点から見た災害発生時における「暮らしの場」の変遷
実態および選択意向に関する研究

選定背景

プロジェクト活動で福島に通うなかで、「生活の場—居住地、通勤通学地、趣味交流の場所」を選択する際、ジェンダーギャップを感じる話を聞いてきたことがきっかけ。

Sセメ

既往研究をバラバラと読んでいたので、もう少し計画的にできたらよかったなあと思う。

楽しさ

通い始めて5年目だが、これまで知

らなかった人たちに会えること、またお話を聞く中でこちらが元気をもらうこと

難しさ

既往研究をバラバラと読んでいたので、もう少し計画的にできたらよかったなあと思う。

夏に向けて

ひとまずプレ調査してきた！ので、調査計画のブラッシュアップと追加調査頑張る

Kengo Mizuno

任意・社会的歩行回遊の全体像と影響要素に関する研究～自由が丘駅周辺の商業集積を対象として～

選定背景

街を歩く中で興味を惹く店舗への入店や他者との触れ合いなど非計画の物事を楽しんでおり、移動という必要活動が任意・社会的な行為になる要因を知りたいと思ったから。

Sセメ

今学期は研究対象地や方法の検討のため何度も仮調査を行いました、その中で自分の関心や仮説を洗練させ、対象地と大まかな方法を決められたことは良かったと思います。

楽しさ

自分が楽しいことを思うことを学術的に追求していること（日常生活で街を歩いて、その中で楽しい出来事

との出会いを探すことが研究内容につながっているのが嬉しいです。

難しさ

回遊の様子を調査する上で、自然な状態（被験者であることを意識しない状態）での回遊の様子把握、回遊中に感じたことの網羅的な把握を両立すること。

夏に向けて

対象地である自由が丘に足撃く通って空間特性を調査し、GIS上でまとめるのを終わらせます！調査項目が多いので効率的に進め、ビジュアル的に良いものを作りたいです。

Chiharu Motoyoshi

住み開き住戸付き賃貸住宅の実態把握と居住者と地域との関係性に関する研究

選定背景

ある地域に住んでいる人が、その地域に愛着を持ちながら暮らすための方法の一つとして、住み開きがあるのではないかな、と思ったため。

Sセメ

スロースタートではあったけど、7月は結構事例見学にも行けたので満足！

楽しさ

事例見学で、実際に住み開き住戸に住んでいる方の話を聞くこと。普段入らないようなお店でも、住み開き店舗だから入ることもあるので、家

の雑貨が増えていって楽しい。

難しさ

住み開き住戸を推進する制度などがあるわけではないので、自分の研究結果が何に結びつかが見えづらいところ。

夏に向けて

夏休み、残り半分なのでプロジェクトも研究も遊びも両立させられるといいな。笑 悔いが残らないように頑張ります。

Maho Yamada

緩やかな管理下で形成されるエディブル・ランドスケープの運営管理に関する研究—

選定背景

公共空間において個人の利益になりうる活動が許されている状態の「余白」「勝手性」に、インクルーシブな都市デザインの可能性があると考えたから。

Sセメ

ようやく対象地が決まり、手を動かし始め、少しずつ楽しいと思えるようになってきた。沖縄に弾丸で行くフツ軽さを持ち続けたい。

楽しさ

食べられる植物が成っているのを見

ると癒される。植物に詳しくなって散歩の楽しみが増える。

難しさ

類似した分野の研究が多くある中でどのように新規性を見出すか。文献を読んでいると思考の沼にはまって進まなくなってしまう感じがする。

夏に向けて

断面図を描き上げる、市役所の人にオンラインインタビューする、海外武者修行にむけて英語で話せるようにする！



六角橋の長屋風住みびらき住戸（元吉）

Doctor

Ayaka Shibata

中山間地域の農山村を後背地に抱えた在郷町における近代以降の集落空間変容過程

選定背景

実家が市街化調整区域にあり、地方都市の郊外で都市計画に何ができるかを考えていました。都市形成史への関心と合わせて在郷町に興味を持ち、卒業設計で扱いました。

Sセメ

体調不良が続き全く研究が進められない日々でした。梗概と査読1本を出せたことでなんとか精神状態を保ちましたが、研究の質・量ともに低

劣なもので申し訳なさが募ります。

夏に向けて

気持ちを切り替え、常に研究について考えられる体調を維持したいです。史料を丁寧に分析しつつ、研究の意義とそれを論じるに足る構成・内容を考え続けたいと思います。



在郷町上滝（富山市）の1961年航空写真（柴田）



Refugee shelter prototype done with Keio students at the workshop at Cracow University of Technology(Basia)

Shuting SUN

Social spatial effects and mechanisms of the people-centered approach in the conservation of Habitat heritage sites

Reason
I am interested in the community participation in urban heritage management and people's emotional connection with heritage place. Especially the situation in China and Japan.

S semester
During Feb to May, I went to ICCROM in Rome to make a

archival research on the theoretical development. In June I distributed the questionnaires in UCHIKO. In July, I wrote a conference paper on the case of Thailand which I found in ICCROM and participated the IPHS conference in Hongkong.

For Summer
Trying to finish journal papers also some chapters of the dissertation.

JIN Panpan

Birth and Transformation of Modern Ningbo — Spatial modernization of Chinese port cities

Reason
As a cradle of civilization, premodern Chinese cities, defined by ritual systems and Feng-shui, experienced profound modern spatial transformations, highlighting the dynamic interplay between traditional Chinese and Western planning ideas.

S semester
It focuses on traditional communities' structure, their characteristics, and modern evolution, as communities reflect urban organization and are key in forging connections between residents and the city.

For Summer
My summer research focuses on how foreign planning ideas, particularly from the West and Japan, were introduced into China and who played key roles in this process.

a map of Ningbo from around 1840(JIN)



Basia Matelowska

A study on patterns of refugee admittance to city tissue and its urban redevelopment merits.

Reason
Disaster recovery and minority-inclusive design and research have been interests of mine since my undergraduate studies. I believe architecture and planning has great responsibility to contribute to improving the quality of life for the least privileged as a priority.

S semester
Lots! From working as a teaching assistant at a Redesign Studio to holding a workshop for disaster shelter construction in Poland. Own research-wise, I connected with many Ukrainian refugees and had the privilege of hearing their stories.

For Summer
I'm looking forward to spend the summer months exploring the nature spots around Tokyo!

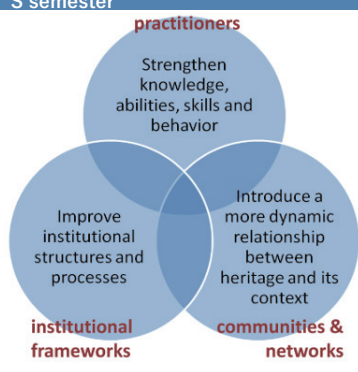
Shuailing Cui

Tourism-Residence Relationship in Suburban Tourist Destinations Focus on Newcomers: Migrants and Business Owners

Reason
How the city, especially the suburb, reacts to aging and depopulation interests me. I believe that suburbs need more attention where are friendly to live.

S semester
I did questionnaires and interviews at my research site, Uji. I stayed in Uji for 3 months to look for interviewees.

For Summer
Go back to my hometown in China.



citation :
ICCROM PCN24 course handout (SUN)

マガジン編集部 研究クロストーク

5つの回に分け、各々の研究への想いを話してもらった。

Session 1 | 我が道を行く 趣味を研究に | 東條×和栗

—なぜ、趣味を研究に？

和栗 八丈島が好きで、たまたま二地域居住のポテンシャルがあって、たまたま青木先生が研究室にいらっしゃって。趣味と研究の方向性が偶然合致した。

東條 都市は様々なアクティビティの集合体だと考えていて、その中で自分が行うアクティビティであるランニングを扱おうと思った。あとは、東大生の中でナンバーワンを目指すのは、レベルが高くて病む気がしたので、オンリーワンになろうかと思って。

和栗 それは結構あるかも。私は自分で物事を詰めることが向いてなくて、アカデミアの細分化された世界に突っ込むことが苦手だから、自分の趣味を扱うことによってオンリーワンの題材を見つけられたかなと思います。

東條 趣味をテーマにやれるというのがデザ研ならではのよね。だからこそ迷走している部分はあるけど…自由な分、個人的意義は見出せるが社会的意義がある研究なのかわからない。学生も共同研究に参加するような所だと、社会で問題になっているところにアプローチしているし、指導教員の課題意識と似ているから成果としては出しやすいかなと思ったり。

和栗 スタートが社会的意義ではないので、どう結びつけるか苦悩する部分ではありますよね。

—和栗さんは卒業制作に引き続き八丈島ということだけど、もともと修士の研究まで見据えていた？

和栗 好きなことでやろうと思って

いたし、卒制を進める中で課題を見つけていったから絞っていった感じ。

—Sセメを見ていて、2人ともしっかり、手と足を動かしている印象。

和栗 枠組みを考えると右往左往してしまう人が多いのかもしれないけど、とりあえずリサーチして仮説を引っ張ってくるというボトムアップ型の研究が出来るのは、実体験に基づいた研究の強みだと思う。だからこそ枠組みを作るところで困っているんですけど…

東條 僕は、PJやスタジオなどのグループワークと比べて、優先順位が下がってしまった。研究の比率を上げていかないといけないと思っている。Sセメで気づいたこととして、マガジンと絡めると研究が進むということ（注：5月号参照）。締め切りがあって、発行できる程度のものにするためには、整理する時間を取らなければいけないので、必然的に進む。

和栗 マガジンの私物化ですね（笑）。私は、ペース配分ミスで後半失速してしまった。島民の方に話を聞き、さらに知り合いを紹介してもらうことを繰り返していたら、ひたすら予定が詰まっていた。一時間の使い方、自分で優先順位をつけなければいけないもんね。

和栗 グループワークの比率を少し下げようかなと思っている。地域に入り込む研究をする分、責任が生じるのでそちらを優先したい。TJ（注：東條）も調べなければいけない事例が多くて大変そう。

東條 横断的な研究とケーススタディ、両方やろうと思っているが間に合うかわからない。マラソン大会は年に1回だから、スケジュールが縛られるんだよね。アンケートを

配る予定でいるから差し迫って来る感じ。

和栗 私もアンケート調査を考えていて、今、八丈島に行く飛行機の機内で配れないか、まちの方と協議中。観光協会を通して航空会社に頼めなかなと。人の主観的な部分を明らかにしようとするからこそ、アンケート調査になりがちだなとは思いつつ…。

東條 工学系の研究科の中ではかなり社会科学に近いことをやっている。どう説得力を持たせるか。やっぱり定量化しないと。

和栗 趣味が出発点だからこそ、着眼点が奇抜だと思う。今まで工学や都市工学が扱ってきた範囲に収まりきれないものになりすぎて、社会的・記述的に偏ってしまうという面はあるかなと。ただ、TJのマラソンも、私も二地域居住も、「越境」がキーワードになると思っている。容積率とか遮蔽率とか間口の広さとか、そういう数字的なものでは扱えない、シークエンスの体験とか、新しいライフスタイルをしている人のあり方といった、分野を越境した研究になりそう。

—出発点が社会的意義や問題意識でないからこそ、既存の枠組みに捉われないんだろと感じた。

最後に、宣誓しておきたいことは？

和栗 趣味を研究につなげたからこそ、生半可に出来ないなと思っている。自分が納得できるように。

東條 趣味を結びつけて就活なども話しているので、“完走”しきりたい。



Session 2 | 学部からまっすぐ 水辺空間 | 音山×星

一着目した理由は？

星 水辺が好きだったのが一番のきっかけ。地元から東京に出てきて、山が近くにない東京で一番身近な自然が水辺じゃん、と思っていた。長く手賀沼PJに関わってきて、卒制でも扱っていた中で、水辺空間に関わる多主体の連携に課題意識を持った。

音山 自分はずっと水辺に興味があった。地元の山形市に堰があって、昔からそこで遊んでいたんだよね。卒制でも地元の水辺空間の活用を提案したし、研究もそのつながりでやろうかなと。

二人とも卒制からぶれていないんですね

星 卒制中、卒制をどう手賀沼PJに活かせるかを考えていた。学部時代からPJに参加していたとはいえ、知らないことも多かったし、忙しくて向き合いきれないこともあった。卒制が手賀沼と向き合う機会となった。その卒制ではかなり先の未来を描こうとしていたが、今はそれに近づけていくために何ができるかなということを考えている。

音山 卒制の時は地元だという軽い気持ちで選んで、その延長で研究ができたらいいなとは思っていたものの、かなり迷走した。水辺をテーマにしたいということは決めていたが、その中で何を扱うのかを決めるのにかなり時間がかかった。

まさに今星さんが悩んでいるところでは？

星 水辺をテーマに進めてきたけれど、テーマの絞り方が難しく。興味があるのがどこなのか、どう見極めていけばいいの

かわからない。Sセメを通して、思ってたよりも対象を絞らなければいけないんだなと感じた。「多主体連携の～」と話していたら、「どことの連携」まで決めなければいけないといわれた。

音山 僕もM1の2回目のジュリーまで迷っていた。自分の場合は、まず1つ好きな事例を見つけた。それが今ケーススタディで扱っている隅田川のオープンカフェだったんだけど、事例を探して、訪れて、滞在してということ繰り返す中で、自分の興味がどこにあるのかを見つけることができた。

星 めちゃくちゃ参考になります。**一事例を絞ると、なぜそれに惹かれているのかという切り口が得られる。逆に、広く調べる時のコツは？**

音山 自分は河川を主に扱っているので、国交省の資料を見ていた。かなり詳細なものを出して、読むだけで制度面について頭に入ってきた。あとは、大阪や広島など、水辺のまちづくりを大きく掲げているまちの計画について資料を読むだけでも、各主体の連携がつかめてくる。直接自分の研究につながるかはわからないけど、あさっているうちに完ぺきではないにしろ理解が進んでいく。

星 色々かじってみてはいるけど、全体的にはつかみ切れてなくて、自分の中で構築している途中です。

他の研究室の人たちと、研究について話すことはある？

音山 他の研究室の研究方法を全然知らないな…デザ研、閉鎖的過ぎ？去年卒業した計画研の人が同じく水辺を扱っていて、彼と雑談がてら水辺のあり方や事例について話したことはある。

星 良くも悪くも放任で自由。他の研究室だと、ジュリー前に発表練習

があったり発表資料に赤入れされたり、対策が手厚い。あとは、デザ研は、自分をもとにした課題意識から出発できるのがとてもいいところだと思う一方で、社会的にどう意義があるのかといわれると、もう一步深掘らなければいなくて、そこが難しいと感じる。

音山 今なんとか結び付けているところだけど、全部に社会的意義を求めるのかなと疑問に思いながら位置付けているという面もあって。どう社会的意義に位置づけたかというよりは、「今の水辺空間のここが良くないよね」

というスタンスでやっている。自分の研究がこう役に立ちます、というようなことはあまり考えていないんだよね。先生たちにもよくいわれるが、意識すべきことは社会的意義よりも問題意識の方なのではないかな。社会的意義はその裏返しくらいで。

夏やろうと決めていることは？

音山 夏は暑いから実地調査はしたくない。というか河川に人が全然いない。だからどちらかという研究の枠組みを固めたり、俯瞰的に見るところを固めたい。秋に入ったらケーススタディの調査をするだけにしておきたい。そろそろ時期的にもやばいので、己に言い聞かせる意味でやります。

星 本を読む時間を作る。PJやスタジオに忙殺されてインプットができなかったのが、自分が狭めているテーマにとらわれず広くインプットしたい。あとは、音山さんの話を聞いて、実際に足を運んで事例を見つけたいと思いました。



Session 3 | 1年間の葛藤 怒り・意義 | 洲崎×山田

—研究活動そのものに対する葛藤を重ねてきた（自称）2人の回。洲崎さん、結局テーマは？

洲崎 災害とジェンダーに関する問題の都市工的整理を試みたうえで、都市工的アプローチが出来るトピックとして居住地変遷に興味を持ち、「暮らしの場の変遷」をテーマにしようとしている。

—都市工的に見るとは？

洲崎 私も全然わかんないんだけど、強いテーマが羅列されているだけの状態って整理されているとは言えない気がする。発災前後のタイムラインとか、空間的整理とか、考えるべき範囲とか、個人・都道府県・国、どのレベルでの問題なのかとかの整理をする必要があると感じた。

—より実務に近いところみたいな

イメージなのかな。

私は結局、問題意識のベースはずっと都市工学と遠いところにある気がしている。

洲崎 やまほ（注：山田）の研究は、図面が描けるからいいんじゃない？と思ってる。あとは樹種の話もできるの面白い

よね、沖縄の土地の特性が出てくるだろうし。都市工というか、宮城先生のいた研究室という感じかもしれないけど。

—自分では予想もしていなかったけど、“ランドスケープ研究”ばかり読んでいて、その分野に落ち着くんだって思った。

洲崎 でも、ランドスケープを専門的に扱っている人たちが選ぶトピックでもないような気がしていて、商店街とかを見てきたやまほだからこそ選ぶようなトピックだなとは思うよ。

—去年とか、研究のテーマがピンポイントになりすぎることを受け付けられない自分がいた。言い方に迷うけど、末端というか「手法」ばかり扱ってるじゃん、みたいな。私はもっと社会学的なところに関心があるのに、みたいな。

洲崎 卒論を書いていない我々は、いきなり修論ではなくて、学会論文なりに尖ったテーマで1, 2回出しておくのと良かったのかもね。そのうえでより大きなテーマにするというか。

—論文を書いた経験は？

洲崎 防災研の輪講に参加して書いた。あれがすごく楽しかった。そして練習すべきなんだと思った。今、PJを論文にするというのがなくなって、デザ研で論文を書く機会がない。

—研究のモチベはある？

洲崎 ジェンダーのテーマは、興味深いからやっているというよりは、意義があると思っているからやっている。卒制は楽しかったが、修論に関しては、意義と学部時代からの怒りが動機。PJで地方に行くと、ジェンダーバイアスを目の当たりにする。自分に直接向けられることはないが、例えば酒の場での女性のふるまい方とか。それらが無意識下で再生産されることとか。やっぱり、怒りだね。

—そういう少しネガティブな感情から始まっているのが私たちの共通点だと思っている。

洲崎 研究を通して怒りが届くかはわからないけど、研究内容を聞かれた時に「私は災害とジェンダーの話を持っていて、こう思っているんです」と話すと、自分の問題意識がすぐ伝わるのいいと思っている。論文を読んでもらうことはないかもしれないけど、それを言い続けること

が大事かなって。「それって

大事だよ」と言ってくれる仲間が見つけれられる。

—研究に終始しない、という感じだね。最近の私の研究について、テーマが絞れてきて面白くて楽しいし、納得もしているんだけど、最初に問題意識として抱いていた、対マイノリティ、インクルージョン、みたいなものをどれだけ研究に反映できるのだろうかと考えてしまう。単なる植物の研究になるのかな、とか。かといって無理やり結びつけるのも変だし。

洲崎 2つあって、1つは、トピック選定の際に自分の問題意識のバイアスにかかるけど、論文として著す時には触れないものということ。もう1つ、これは宮城先生から言われたことだけど、「そんなに器用じゃないんだから、ストーリーを大事にしてるけど、それよりも手を動かさない。それでそろった素材から考えればいいんだから」ということ。ジュリー等で人に伝える際に必要になることもあるけど、それで中身がなかったら本末転倒。

—肝に銘じます。研究に大きな意義をなんて、傲慢だったかも。最後に、夏の抱負は？

洲崎 そろそろインタビューに行かなきゃ。あとは、遊ぶ。そして体調を崩さないこと。やまほは？

—10月に武者修行に行くので、それまでに何かアウトプットを。既往研究と他の事例のあたりをつけるくらいはやらなきゃ。

洲崎 まあでも事例をしっかり掘り下げていくことも大事だと思うよ！



Session 4 | 暮らしに思いをはせる 住宅における用途の混在

元吉×松本

—テーマに行き着いた経緯は？

元吉 愛着を持てる空間に興味があって、その中でどこを扱うか考えていた時に、住まいが閉ざされずにコミュニティづくりもできれば居場所につながるのではないかと思い選んだ。最初から住宅とそれ以外の用途、というところに入ったわけではない。

松本 私は場所から。卒論を鎌倉で書きたいと思って、鎌倉を歩いていると、隠れ家的な店がたくさんあり、用途地域的には基本住宅しか建てられないはずなのになぜだろうと興味をもった。あとは、戸建て住宅地を歩いているときに建物の外観から生活が見えるのが好きで、住宅以外の用途が混ざっているのが面白いと思った。まだ対象地は決められていないが、修士研究でも引き続き扱いたいと思ってます。

—互いの共通点や違いは？

松本 私は戸建て住宅だけど、元吉さんは集合住宅なので、対象とする住宅の形態が違うかな。

元吉 私は逆に共通点として、興味を持ち方。集合住宅・戸建てと関係なく、人が住んでいる場所を見て、外観や住戸の形から間取りや暮らしの姿を想像するのが好き。街歩きをしながら人の暮らしに思いを馳せるというのが似ていると思った。

—今のデザ研メンバーが線的・面的なものを扱うことが多い中で、1つの建物の中の在り方に着目するというのも共通点なのかもしれない。

松本 卒論では割と建築レベルの話もしていて、都市計画的な視点とどう結びつけるかで苦労した。個別の住宅が地域に開かれていることの、

都市計画的価値を述べたかったが、地域への開かれ具合が感覚に依ってしまうので、将来の都市計画に反映させられるような客観的な評価の指標をどう得るかというのが難しかった。

—愛着や居場所というものをどのように数値化するかが気になる

元吉 結局アンケート調査で、個人の主観的な居場所観を聞くことになりそう。できれば、客観的な形態などをもって愛着に寄与すると言えたらいいんだけど…。ある場所で出来るコミュニティに愛着を持つという話になりそうで、加えてその建物の形態や仕組みとの関連性について言及できたらと思うんだけど、いまのところその術を持ち合わせていない。都市デザインにどうつなげるか、例えばそういう仕組みを持った場所を増やしていくような制度につながる研究になるのか不安に思う。

松本 卒論のときに、実態調査で終わってしまうと思った、ここで得た知見を他の地域にいかにも適用するかを考えられたらベストだけど、なかなか普遍的なやり方を見つけるのは難しいと思う。

元吉 事例の蓄積だとして、別の地域に適用できるかというときに、自分が研究した要素以外の部分も大きすぎて…都市工の研究って何だろうってなる。

—PJとの関連に意味を見出すことは？参考になることなどある？

松本 富士吉田は機織りが有名で、その工場のほとんどが住宅とくっついている。今はつかわれていない工場も多いが、地域おこし協力隊の方がそれらをアーカイブしようとしていて、その調査に同行し話を聞いたり、中に入らせてもらったりしている。住宅と非住宅用途の工場がくっついている様子を見ることがで

きて、もはや研究の対象地にでもできそうだなと思っちゃっている。その地域ならではの建築様式が見られて面白い。

元吉 みなかみは、周辺地域との行き来がまあ多くて、職住近接という感じではないかも。農業の職住近接はあるけど、街と繋がるという自分の興味範囲とはあまりつながらないかなと思っている。

—押さえておくといいよという文献等あれば

松本 メジャーですけど、槇さんの「見えがくれする都市」（鹿島出版会）は、建築スケールの話から都市スケールの話まで面白い。鎌倉の研究をしていた時に建物のファサードの分類の参考にしました。

元吉 「PUBLIC HACK」（笹尾、学芸出版社）は面白かった。

—私と元吉さんは関心の持ち方は違うけど、読んでいる本は被っていたりするよね。

最後に夏休みの意思表明を。

元吉 ジュリー後、富士山に登って、上野の社会実験して、みなかみで…と追われているので、PJにかまけすぎないということで。

松本 学部時代の研究室として都市計画学会に出すんですけど、めちゃくちゃ修正要求が来てしまったので頑張ります。卒業したのに月に2回くらい横国に行ってるんです…あとは、渋谷の高級住宅街とか歩いてみたいなと思ってます。

元吉 松濤面白いよね！住宅と商業の混在で言うと、東の方の下町のイメージがある。比べてみたら面白そうだなと思った！



Session 5 | 三者三様 商店街 | 小林×水野×木村

一商店街を見る切り口がそれぞれ全然違う。たどり着き方は？

水野 学部時代、都心における公共空間として駅前広場を扱ったが、修士になって、駅前広場だけにぎわっているだけではもったいないのではないかと思い、広場をもう少し面的に広くとらえて、商業地域を対象にしようかなと

小林 たしかに最初は駅前広場の話だったのに、M2で急に商店街って言い出したよね。

全員 なんか毒ない！？

小林 あ、でも私も人のこと言えないかも。最初郊外住宅地を扱おうと思っていた。あるテーマをもった景観を新しく作ったまちに興味があったから。おおもとの関心は変わっていないが、対象が商店街になったという感じ。

木村 小さいころから生活の中に商店街があったから興味を持った。卒業制作で扱って、修士研究でも商店街で突っ走ってます。

一**生鮮食品にフォーカスしたのが興味深い**が、なぜ？

木村 商店街巡りをしていた時に、賑わいの有無に八百屋さんの存在って大きいなと思った。店主の方とのやり取りなどで生まれるにぎわいが、外からも見える。賑わいを生む要素として一旦絞ってみた。ただ、八百屋にしたけど、店舗の建築レベルなのか、商店街のなかの立ち位置の話なのか、物流・流通的スケールなのか、など指摘され、まだ迷っている。

一**広場の拡大解釈としての商店街、テーマ**

性を持ってつくられた空間としての商店街、地元のコミュニティとしての商店街。みんな違うが、お互い参考になるなと思うことは？

小林 みずけん（注：水野）の、広場の延長の商店街という話は、みなかみPJの広場の考え方と似ているのかなと思った。木村さんは、すごく身近なテーマだと思っていて、八百屋さんの存在の大きさは私も札感じていたことだから、それを研究しようと思うのが素直な着眼点で楽しそうだなと。

水野 なつつん（注：小林）の研究で参考にしたい点がある。自分は、人に歩いてもらって楽しいを想う要素を抽出してもらうんだけど、結局四角で認識するものが一番大きいので、景観整備とも関わってくると思う。個別の店舗が形成するものと、商店会等が統一して形成するものとのどのような違いがあるのかということの参考にしたい。木村さんは、賑わいを考えるとき、単純に考えればヤン・ゲールの言う任意活動、商店街でいえば飲み屋街などに行きそうなのに、あえて生鮮食品店という必要活動に近いものに着目しているのが面白いと思った。

木村 私は2人の研究室会議の発表を聞いたことがテーマを絞るうえで参考になっていて、2人どちらかのテーマに寄っていたこともあったんですけど。さっき改めて経緯を聞いて2人のテーマに納得した。しっかり聞くと全然自分と違うなと思ったし、だからこそ自分の関心があるところが絞れました。

小林 おなじ商店街とは言えど、対象にする商店街が全然違うそうだよな。

水野 確かに。木村さんは阿佐ヶ谷なんだけ。中央線沿いのイメージ。



木村 そうですね、住宅が近いところがいいと思っています。表参道のような来街者向けのところではなく、生活の中にある商店街がいいなと思っています。

水野 僕も新宿・渋谷・竹下通りあたりは関心とは違って。でも住宅密着型までいくと、歩く楽しさというよりは、そこでうまれるコミュニケーションや人の触れ合いを楽しむ感じになる気がして。自分の関心として、たまに来る「ハレの場」としての楽しさを追い求めたいなと考えたときに、自由が丘にたどり着いた。

一**小林さんは、手づくり郷土賞に掲載されているものから絞るんだっけ？**

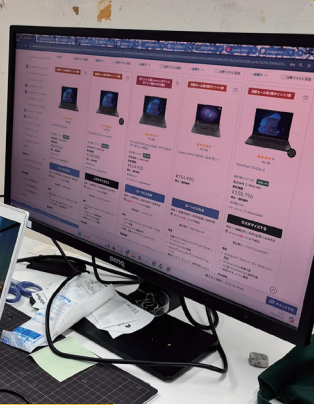
小林 これも中島先生のアドバイスだけど…私のテーマ的に時間軸が重要だと思って、昔整備されたものが今どうなっているかを振り返られたらいいよねと。2人がやっているのは今ある商店街だけど、私は今もう商店街として機能していないようなところも扱いうるから、そこが違うなと思った。既に住宅街になってしまっているような場所も含まれるから、その変化の過程も考えたい。

一**水野くん・木村さんは1つを掘り下げるの？**

木村 絞るつもりだけど、その前に杉並以外も見たいと思っている。

水野 あえて歩いて楽しくない所と比較することや、似たような所と比較することも考えたが、条件を揃えるのが難しい。ここまで来たら1個に絞ってその分1つ1つの店舗の





ファサードまで細かく調べようかなと思っている。その中でどれだけ楽しいと思える要素を見出せるかという方向に進もうかなと。

小林 人の感じ方を研究対象にして、それを評価するのって難しそうだよね。デザ研でそういう扱いがちで、都市の認識の仕方みたいな所にみんな興味があるんだと思うけど。だからめちゃくちゃ楽しみにしてるね。

全員 (笑)

一事例はどうやって集めている？

水野 「東京の創発的アーバニズム」(ホルヘ他、学芸出版社)は、商店街についても色々な事例が載っていた。西荻窪、自由が丘、あと雑居ビルとか。

一私も読んだけど、こうやって街を見るんだという視点の参考になりそうだった。

小林 読むわ。

水野 でも自分の興味ドンピシャの本ってなかなか見つけれないよね。

小林 あったら既往研究あり、新規性なしになるから、それでいいんだよ。

一では最後に抱負を。

水野 自由が丘に決めて、通いまくろうと思っているところですが、7

月に撮りためたウォークスルーの動画をGISに落とし込む作業も進めたい。まだ2割しか終わってなくてこのペースではやばいなど思いつつ、体力でゴリゴリ進めてしまおうとするので、もう少し賢い進め方を探らなければ。

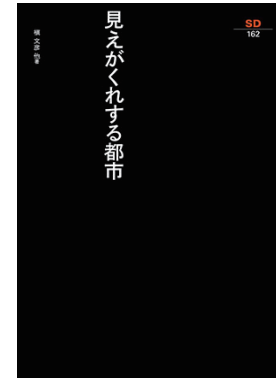
小林 私はゴリゴリやんないとな。まずは行きやすい東京の商店街から。あとは住宅地図など、しっかり残っている資料を読み込むこと。それから、一番最初に、1年先延ばししている壊れたPCを買い換えませす。

木村 Sセメに詰め込みすぎてやばかったので、身を削りすぎずに進めたい。楽しい範囲で、杉並以外の商店街をあそびがてら訪れようかなと思います。

水野 大阪も商店街たくさんあるからぜひ。天神橋筋商店街とか。

木村 ありがとうございます！

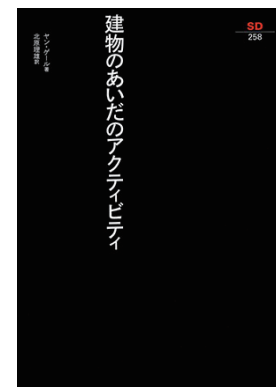
BOOKS IN SESSIONS



見えがくれする都市
横文彦 鹿島出版会



PUBLIC HACK
菅尾和宏 学芸出版社



建物のあいだのアクティビティ
ヤン・ゲール 鹿島出版会



東京の創発的アーバニズム
ホルヘ・アルマザン+ Studiolab 学芸出版社



Sセメを振り返る（東大・デザ研初心者 ver.）

今年4月に東大とデザ研に入ったばかりのM1松本が、入学後からの濃密な5か月間を振り返ります。

Special Thanks
M2 小林・M2 水野・M1 東條

私と同じく大学院から東大に入学した先輩方、「東大入学後の驚き」をお聞きました。

April

4/5 # 研究室会議（初回）

研究室のメンバーと初めての顔合わせ。私は「研究室会議係」になりました。

- ・研究室会議（=ゼミ）、
- ・ゼミ（=学期末発表）など、
- ・独特な用語に戸惑った（M1 松本）
- ・研究室会議が自由参加（M2 小林）
- ・研究室会議が少ないかつ短め（M2 水野）

4/12 # 入学式

4月入学のM1で写真を撮りました。（1名不在）



@日本武道館

4/20-4/22 # 現地視察

入学から1ヶ月経たずして飛行機で宇和島へ。班のメンバー5人と津島岩松地域を歩き、住民の方々ともお話ししました。



復興デザインスタジオ（授業）@愛媛県宇和島市

- ・授業やPJでの交通費・宿泊費を学校側が出してくださり、とてもありがたい（M1 松本）

May

5/6 # 新入生まち歩き

初めての富士吉田！富士山の大きさに終始驚いていました。



富士吉田PJ @山梨県富士吉田市

5/14 # 第1回えきまち研究会

住民・市役所の方々とのワークショップ。ぎこちないファシリテーターでしたが、8月までの全5回で徐々に上達しました。



富士吉田PJ @山梨県富士吉田市

- ・大学での会議時は Google Document、連絡は Slack が命（M1 松本）
- ・デザ研はPJがあるからか、先生との距離が近い（M2 水野）
- ・都市工は都市計画関連の興味深い講義、演習、プロジェクト、外部イベント等を山田と提供・紹介してくれる（M1 東條）

June~July

(6/30-)7/1 # 最終発表

発表日前日から作業すること24時間以上... パネル・模型・スライド作成を頑張りました。



復興デザインスタジオ（授業）

7/2-7/3 # 現地視察

行政や企業など、観光政策に関わる様々な方のお話を伺いました。葉ラグジュアリーホテルのスイートルームにも入ることができました。



観光政策Ⅰ（授業）@栃木県日光市

7/29 # ジュリー

都市工の錚々たる先生方を前にして緊張。秋学期はもう少し進捗を生み出したいです...



- ・学校周辺に飲食店が多すぎ（M1 松本）
- ・市内に観光客が多すぎ（M2 水野）
- ・図書館の荘厳さがすごい（M1 松本）
- ・色々な奨学金・補助の制度がある（M2 小林）

August

8/19-8/21 # 門前サマーキャンプ

4大学の学生が善光寺門前に集合。私たちの班は「回遊性」をテーマに調査を行いました。



善光寺PJ @長野県長野市

8/26 # 学生拠点のDIY・火祭り

D2 Basia さん主催のDIYと、三大奇祭の一つ「火祭り」を楽しんだ1日でした。



富士吉田PJ @山梨県富士吉田市

- ・学生は研究やPJ以外にもそれぞれのことを行っている（M2 水野）
- ・先生と学生のバイタリティがすごい（M2 小林・M2 水野・M1 東條）

振り返ると人生で一番レベルの忙しさを感じた5か月間でした。Aセメも楽しく全力で駆け抜けたいと思います！

COLUMN

WEB MAGAZINE

続きはコチラ >>>
<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>



しのばずほこみち社会実験



上野プロジェクト

不忍通りにおいて、シノバズ・ナイトテラス 2024 JAZZ&BEER を開催しました！歩道を活用したジャズ演奏を、地元のクラフトビールを飲みながら楽しむ期間限定ナイトテラス。大盛況でした！（M1 和栗）

夜の生きもの観察会

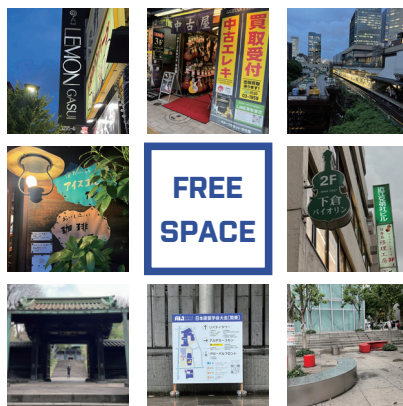


手賀沼プロジェクト

8/18(日)、いつもとは時間をずらして夜の観察会を開催！池のガサガサの後はライトトラップを仕掛け、コガネムシやコフキトンボなど、普段はあまり見られない生きものとの出会いができました。（M1 星）

MACHI BINGO

マガジン片手に、まちを歩こう



御茶ノ水

今年の建築学会大会の会場となった御茶ノ水。東大生は学内で模型材料を揃えるのではなく、御茶ノ水のレモン画翠まで買いに行くことを入学後初めて知りました。個人的には楽器屋さんが多いことも推しポイントです。欲しくなってしまう...！（M1 松本）

8

月号担当

M2

山田真帆



私自身の夏休み中の研究のモチベーションを保つべく研究について特集した。しかし、このマガジン作成に追われ、気づけば8月末を迎えている。しかも、30日から北欧・東欧旅行に行く予定なので大急ぎだ。果たして出国までに無事発行できているのだろうか。ちなみに表紙の写真は、まるで上っているようなキャプションを付けたが、下山時のものである。